



京の食文化を支え、農・食育活動で地域に貢献

このコーナーでは、商品の売り上げの一部が京町家まちづくりファンドへの寄附となる寄附付き商品をお取り扱いいただいている企業の方の、商品への思いや京都のまちづくりに対する思いをインタビュー形式でご紹介します。今回は、「京果」の愛称で親しまれている京都青果合同株式会社 調査室室長 湊二郎さんと果実部リーダー 長野一真さんにお話を伺いました。



Q 御社の経営理念や地域貢献の取組を教えてください

私達、京果グループは、『食の総合物流サービス企業』を目指し、「安心安全な青果物を安定的にお届けし、皆さまの健康をお守りする」という使命を果たすべく、業務に取り組んでいます。また、京都に根ざす地元企業として、地域への社会貢献活動を積極的に行っています。その一つが市内の小学校での農・食育活動で、食育基本法が制定される以前から、学校や自治体、生産地の協力を得ながら積極的に取り組んでいます。普段野菜嫌いの子供が、自分で育てて調理する経験を通して食べられるようになったなど、多数の喜びの声をいただいています。さらに、梅小路エリア活性化のため、既存ビルをリノベーションして今年オープンした KYOCA (京果会館) は、「食」をコンセプトにした建物で、イベントも行っています。このような活動の中で、品質管理をきちんと行い、安心安全の食材を提供する中央卸売市場の役割についてもお伝えしています。

の不便は感じるものの、それだけ多くの方が京都に足を運んでくれるのはありがたいことだと思っています。そして、京都がみんなから大事にされていることが実感できる。「京町家まちづくりファンド」のような活動は、とても大切なのではないのでしょうか。

湊さん：京都を自分たちの誇りとして実感出来るようなまちにするためには、生産者と関係者の努力で京野菜というブランドが作り上げられていったように、京都市民が自らの力で建物のデザインや京町家を残すためのシステムづくりを普及させることが重要だと感じています。



Q 寄附付き商品をご提供いただいた経緯は？

寄附付き商品の「京町家まちづくりバナナ」も地域貢献活動の一環だと考えています。仕入元である株式会社ドールは、全国でバナナの寄附付き商品を展開していますが、京都では、京都ならではの活動である京町家の保全・再生に協力したいという思いで、平成 21 年に販売をスタートしました。2 年前のフィリピン台風の影響でバナナの値段は高騰しているのですが、ドールさんからは従来の仕入値を据え置きという形でご協力いただいています。また、小売店の方も京町家への貢献活動ができることを喜んでくださっています。

お二人のお話から、安心安全な青果物を提供していただいている「京果」の皆さんに、京の食文化、さらには世界無形文化遺産である和食の文化が支えられていることを実感しました。京町家のおくどさんでおいしい京料理が作りつづけられるために、当財団ではより一層、京町家の保全・再生の活動を進めてまいります。

新たな京町家まちづくりファンド寄附付き商品の販売スタート！

株式会社井筒ハツ橋本舗と、京都青果合同株式会社、株式会社ドールのコラボレーションにより、新たな寄附付き商品「夕子 バナナカカオ」が開発されました。平成 26 年 10 月初旬より、直営店、主要土産物店、百貨店等で販売中です。



Q 京都、京町家に対する思いは？

長野さん：私の実家は清水寺の近くなのですが、観光客が多くて車で帰れないことや、風致地区なので改修手続きが大変など

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL : 075-354-8701 FAX : 075-354-8704
E-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp
http://machi.hitomachi-kyoto.jp/

開館時間 平日・土曜 9:00 ~ 21:30
日曜・祝日 9:00 ~ 17:00

休館日 毎月第3火曜 (国民の祝日にあたる場合は翌日)
年末年始 (12月29日~1月4日)

交通 バス 市バス 4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩 10分



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京まち工房

69

特集 P2-3

京町家等継承ネットの活動が始まります！

京町家等継承ネットの活動が始まります！

京町家等継承ネットの趣旨・目的

京都の町衆が育んだ知恵と技術の結晶である京町家は、歴史的街地の町並みの基盤であり、京都の魅力的なまちづくりを創出しています。しかし、近年、所有者等の高齢化に伴い、相続や維持管理の費用負担等の課題を抱え、老朽化し除却されるものや空き家が増加しています。地域のくらしの文化を引き継ぐ京町家や古民家などは、愛着を持って適切に手を加えれば、世代を超えて使い続けることができるものであり、未来へ伝えたい京都の宝です。今こそ、適切に継承するための実践的な取組が求められています。

このため、京町家等の継承に関わる多くの団体が参画して「京町家等継承ネット」を設立し、所有者や居住者とともに、力を合わせて京町家等の継承に取り組めます。



主な活動内容

① ネットワークの形成と啓発、情報発信

経済、不動産、建築、金融、法律、市民活動等の京町家等継承ネットの会員が、専門分野を活かしたネットワークを形成する。京町家等を継承していく上での様々な課題と、それを解決する各種支援方策などを取りまとめ、協働して京町家等の所有者に適切な継承を働きかける。

② 教育研修

会員構成員に対する教育研修を行い、京町家等継承の専門的相談の習熟を図る。

③ 支援システムの開発

相続、改修費の負担の問題を解決するなど、京町家等を継承していくための、実践的な支援の仕組みを開発し充実を図る。

構成について

代表

高田光雄（京都大学大学院教授）

会員

京都商工会議所
 一般社団法人 京都経済同友会
 公益社団法人 京都府宅地建物取引業協会
 公益社団法人 全日本不動産協会 京都府本部
 公益財団法人 日本賃貸住宅管理協会 京都府支部
 一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会
 京都府建築工業協同組合
 一般社団法人 京都府建築士会
 一般社団法人 京都府建築士事務所協会
 公益社団法人 日本建築家協会近畿支部京都地域会
 一般社団法人 京都建築設計監理協会
 京都弁護士会
 京都司法書士会

京都土地家屋調査士会

公益社団法人 京都府不動産鑑定士協会
 京都銀行
 京都信用金庫
 京都中央信用金庫
 特定非営利活動法人 京町家再生研究会
 認定特定非営利活動法人 古材文化の会
 京町家居住支援者会議
 都市居住推進研究会
 公益財団法人 大学コンソーシアム京都
 公益社団法人 京都市観光協会
 京都市住宅供給公社（京安心すまいセンター）
 京都市
 公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター（事務局）
オブザーバー
 一般社団法人 相続相談センター

京町家等継承ネット設立総会・トークセッションの開催

設立総会

日時 平成 26 年 11 月 21 日（金）
 会場 京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム1・2

高田代表、会員 27 団体の代表者等が一堂に会し、規約や平成 26 年度事業計画が承認されました。また、各会員の京町家等の継承への関わりや意気込みをお話いただきました。



門川大作京都市長がトークセッション冒頭挨拶に駆けつけ、京町家等継承ネットへの熱い期待などを述べられました。

左：高田氏 中：細尾氏 右：田中氏

トークセッション「京町家等の継承」

講師 細尾真生氏（株）細尾代表取締役社長、
 京都経済同友会副代表幹事）
 コーディネーター 田中充氏（景観重要建造物田中邸・近江屋吉兵衛 居住者）
 高田光雄氏（京町家等継承ネット代表、
 京都大学大学院工学研究科教授）



京町家等の継承をテーマにトークセッションを開催しました。

細尾氏には、京町家等の文化的価値を評価・発信することが経済活動の原点となり、さらなる経済価値の創出に繋がることを、実体験を踏まえてお話いただきました。元禄時代に創業以来、現在も西陣の地で西陣織の製造と問屋を営まれる株式会社細尾では、1855 年建築の京町家の座敷を残し、20 年程前に改修した「House of Hosoo」を工場とギャラリーとして活用。細尾独自の技術で世界のラグジュアリーブランドやクリエイターと事業を展開。「House of Hosoo」には、その空間と技術、職人さんの思いに触れるため、国内外から富裕層やメディアが訪れています。歴史や文化を感じる京町家で、世界の最先端の織物の仕事をしているギャップが魅力となり、京町家の文化が結果として経済的威力を発揮しているとのこと。京都が活性化するためにも、京町家にお住まいの方々がまずその価値に気付くことが大切で、維持・継承にはお金がかかるのだから、経済活動を生み出す仕組みが必要だとお話いただきました。また、細尾氏からはグローバルな観点から、京町家に対する様々

な需要に対し、京町家等継承ネットが橋渡し役になり、経済に寄与するようになればとのご意見をいただきました。

田中氏は、1600 年代に近江から京都へ移り、室町五条にて、14 代近江屋吉兵衛の曾祖父まで町家大工をされていた田中家に生まれ、ご結婚を機に本家にお住まいになられています。他者から京町家の良さや価値を指摘されることで改めて気付くことも多いこと、維持には技術的サポートが必要であること、ご家族との和やかな暮らしぶりなどをお話いただきました。京町家等継承ネットに対しては、維持や活用していく際の不安や疑問に、専門家が他の分野とのネットワークを活かし、専門知識を持つ担い手や理解者を増やし、京町家等の継承を支えるセーフティーネットになってほしいと期待を述べられました。

最後に高田代表から、繋がっていくことの強みを生かして、京町家等の魅力を発信していくとともに、継承・活用していくことの重要性の認識を共有し、この生まれたばかりのネットワークを大きく育てていただきたいと思います。

京町家等継承相談会の開催

日時 平成 26 年 11 月 22 日（土）
 会場・協力 The Terminal KYOTO
 京都市下京区新町通仏光寺下ル岩戸山町 424 番地

京町家等の継承や利活用についての相談に、会員の大工、建築士、不動産事業者、司法書士、不動産鑑定士、金融機関、公的機関などの専門家がお応えしました。事前予約制の専門相談には 11 組の申込みがあり、活用、相続、資金、改修などの課題解決に向けて、それぞれの専門の立場から積極的なアドバイスをを行いました。

また、解決に向けて継続的に相談・協議を行っていくことを確認しました。



事業報告会・京町家見学会

平成26年11月9日(日)、京都社会福祉会館(京都市上京区)において、平成25年度寄附者の皆さま、これまでに格別のご寄附をいただいた皆さまを対象に、事業報告会及び京町家見学会を開催しました。事業報告、平成25年度に格別のご寄附をいただいた皆さまなどへの感謝状贈呈の後、京町家まちづくりファンド改修助成事業の支援を行った会場近くの京町家を見学しました。

事業報告

「京町家まちづくりファンド基本方針」による第一段階(先行的モデル事業の実施時期)を経て、平成23年度からの第二段階(安定、継続的な事業の実施時期へ)では、国、府、市の文化財や景観法に基づく「景観重要建造物」等の指定に向け、伝統的な外観意匠へ復元する取組の支援を通して、京町家の将来に渡る維持・保全につなげています。

平成25年4月から平成26年9月末までに4件の京町家に改修助成を行いました。これまでに、景観重要建造物4件、歴史的風致形成建造物3件、国登録有形文化財2件の指定につながる支援を含む、70件の京町家の再生・改修、通り景観の修景を支援しています。

感謝状贈呈

平成25年度に格別にご寄附をいただいた皆さま、長年、寄附付き自動販売機の設置にご協力いただいた法人の皆さまに、感謝状を贈呈しました。



京町家見学会

北岡邸 (平成24年度選定、景観重要建造物・歴史的風致形成建造物指定) ※京まち工房第68号参照



雨の中にも関わらず、美しくよみがえった外観が京都のまちに映える様子が印象的でした。

京町家ならではのダイナミックな吹き抜けと、現代的な住みやすさを備えた水回りが融合するトオリニワは、見学者の関心もひとときわ高い空間でした。



宮岡邸 (平成25年度選定) ※京まち工房第66号参照



火袋が復元された開放的な吹き抜け空間で、改修時の様子や京町家暮らしの感想等を伺いました。

美しいお庭のしつらえに見学者から感嘆の声が上がりました。



ご寄附をいただいた皆さまへメッセージ

京町家まちづくりファンド委員会 委員長
大場 修 氏 (京都府立大学大学院教授)



京町家まちづくりファンド改修助成事業は、申請案件を選定するプロセスが大変ユニークです。選定に向けて、委員全員が現地を訪問し、直接、所有者、設計者、工務店と議論を行うのですが、今年は若い所有者の申請が多く、地域に根ざした京町家での暮らしに対する強い思いを直接伺い、まちづくりの新しい担い手の支援にもつながっていることを実感しました。また、委員会では、京町家それぞれが持つ特徴や歴史、竣工当初の外観を考察した上で、21世紀の居住生活に対応したオリジナリティのある改修をしていただくために、何度も現場に赴き、丹念にアドバイスを行っています。皆さまには、まちづくりに対する高い期待を込めてご寄附をいただいていることを受け止め、事業実施に努めて参りますので、今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター 理事長
青山 吉隆 (京大名誉教授)



たとえば二条城、鴨川、渡月橋のような公共財と同様に、集積した京町家は、京都らしい都市空間を形成する役割の一端を担っています。しかし、京町家はそこで生活している市民の私有財産であり、それをどのように扱うかはもちろん所有者に任されています。この私有財産が、結果として社会的共通資本としての役割を果たしているという特徴のゆえに、京町家に対する公共的な政策の難しさがあります。そして景観・まちづくりセンターの存在理由は、このギャップを埋めて、市民と行政をつなぐことにあると考えております。さらに「京町家まちづくりファンド」はそのギャップを埋め、京町家の継承を支援する優れた事業であります。この事業への皆さまのこれまでのご支援に感謝するとともに、引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成25年度 ご寄附をいただいた皆さま 皆さまのご支援に深く感謝申し上げます。

個人(五十音順 敬称略): 大津弘子 大西功 カセレイコ 木崎勝夫 木股博一 栗本洋治 児玉潤一 酒部正太郎 四方喜代子 高木貴子 西澤孝子 西松卓哉 西村孝平 沼尻健彦 早川直之 平岡輝 平岡邦彦 望月幸夫 横道洋子 吉川正一

以上20名 ご芳名の非公開希望5名を合わせて25名の皆さま

法人・団体(五十音順 敬称略): (株)井筒ハツ橋本舗 京都クレジットサービス(株) (学)京都建築学園京都建築専門学校 京都青果合同(株) (株)さんけい (株)渡月橋 (株)八清 (株)ホリパココミュニティ (株)都ハウジング The Deepest Kyoto Tour 実行委員会 以上10団体

NPO 法人京都景観フォーラムが「景観整備機構」に指定されました!

「景観整備機構」は、良好な景観形成に取り組むNPO法人等を、景観法に基づき景観行政団体が指定するものです。当財団も、平成17年に景観整備機構に指定されています。

8月29日、NPO法人京都景観フォーラム(以下「景観フォーラム」という)が、「景観整備機構」に指定されました。

これまで、景観フォーラムと当財団は共催事業として、地域の景観まちづくり活動を支援する専門家「京都景観

エリアマネージャー」の育成に取り組んできました。また、景観まちづくりに取り組む地域に、当財団から景観フォーラムの景観エリアマネージャーを派遣するなど、地域活動の支援を行ってきました。

今後も、当財団は景観フォーラム、京都市との連携をより強化し、京都の良好な景観形成に向けて、地域の景観まちづくり活動の支援、専門家の育成などの取組を充実させていきます。

この度の景観整備機構への指定を、これから長期的に京都の景観まちづくりに関わっていくための姿勢と覚悟を表明する一歩として受けとめ、今後一層、社会的な認知と信頼を頂戴しながら活動を続けて参りたいと思います。あいまいな言葉に捉えられがちな「景観まちづくり」。わたしたちも切磋琢磨、試行錯誤ではありますが、常に市民目線であることを大切にし、市民が誇れる京都市の景観まちづくりの推進に少しでもお役にたつことができれば幸いです。



NPO法人京都景観フォーラム一団



認定式の様子(京都市役所にて)

NPO 法人京都景観フォーラムの活動を紹介します!

組織概要

平成20年9月に京都市により設立された「京都市未来まちづくり100人委員会」において、景観を市民に身近な文化として定着させることを目指し「市民の景観チーム」として結成したのが始まり。

平成23年11月に法人格を取得し、100人委員会の任期終了後(平成23年12月)も、専門家育成を目的とした「京都景観エリアマネジメント講座」と、市民への啓発と行動促進を目的とした「景観フィールドワーク」を2本の柱として活動を行っている。

●理事長内藤郁子、理事11名、監事1名、正会員20名、一般会員52名(平成26年10月末現在)

活動目的

この法人は、京都市の景観と景観にまつわる文化を市民の視点と立場から向上させ、日本の誇りとなり、世界の人があこがれる都市とすることを目的とする。(京都景観フォーラム定款第3条より)

活動実績

- ◆京都景観エリアマネジメント講座
【基礎講座(平成22年~)、実践講座(平成23年~)】
講座修了者は京都景観エリアマネージャーとして登録(現在35名)
- ◆放置自転車撤去看板のデザイン公募(平成22年)
- ◆七条大橋竣工100周年記念事業(平成24~26年)
- ◆屋外広告物事業(平成24~26年)
- ◆活動紹介冊子の作成(平成23年~、年1回)
- ◆シンポジウムの開催(平成23年~、年1回)
- ◆その他、各地域での支援事業を実施



京都景観エリアマネジメント講座の様子

京都景観フォーラム

検索

●京町家再生事例●

平成23年度京町家まちづくりファンド改修助成事業

「町家の本来の姿を求めて」

生駒邸

今回は、西陣に位置する織屋建^(※1)の京町家を改修された生駒邸のご紹介です。取り壊して現代的な住宅にする、という選択肢もあった中で、これまで暮らしていた京町家の姿を変えずに、生活上の不具合を直すための改修を選んだきっかけは何だったのか。京町家を本当の意味で「活かす」ためには何が必要か。

京町家を改修して改めて抱く京町家への想いをお伺いしました。(話し手：生駒 勲氏)

改修前



改修後



町家としての改修を決意したきっかけ

生家であるこの町家は、織屋建の京町家で、かつては奥にある吹き抜けの作業空間で帯を織っていました。

当初、居住用としてのみ使用するのであれば、前面にガレージがあるような現代的な住宅に建替えればよい、とも思っていました。しかしある時、屋根瓦を補修するために天井裏を調べていたところ、105年前のものと思われる棟札^(※2)が出てきました。棟札を見たとき、105年間も住み続けられている町家を壊すのは忍びないという想いが湧き上がり、新築ではなく、これまで通りの京町家としての改修を決意しました。

生活上の不具合を直すための改修

改修前は、格子戸の足もとがシロアリに喰われて外れかけていたために紐で括り付けたり、吊り戸の玄関戸が開かなくなってしまったり、日常生活にも支障をきたしている箇所がありました。今回の改修では、屋根や外壁の改修に加え、それらの様々な不具合を直したいと考えていました。ただ、改修工事を担当した工務店からは、家自体の歪みや傾きを根本的に直したり、耐震性能を大きく向上させたりしたいのであれば新築の方が早い、と事前に言われていました。

改修後は、結果としては根本的な柱の傾きなどは直らなくても、戸の開け閉めの不自由はなくなり、台風の日でも建具がガタつくことはなくなりました。改修前は冬が本当に寒かったのですが、隙間風もなくなりました。また、古い建具をきちんと直して使っ

て下せるなど、細かな修復にまで対応していただき、非常に満足しています。

改修するというと、ご近所の方からは「次はどんなデザインにするの?」「バリアフリーの工事?」と聞かれました。しかし、改修して外観が大きく変わったわけでも、新たな機能が加わったわけでもありませんので、「お金と時間をかけて改修したのに昔のままだ」と不思議がられました。

織屋建の町家の本来の姿を求めて

昔は、この町家で2世帯の家族と住み込みの職人さんが生活していました。プライバシーなどはなかったのですが、当時はそれが当たり前でした。

最盛期には6台の機械(織機)が動いており、45年ほど前までは帯を織っていましたが、帯の需要が低下し、職人も確保できなくなったため、御守り袋を織るようになりました。自動車の普及で神社仏閣へのお参りが一般化するのに伴い、お土産として御守りの需要が高まったためです。しかし、26年前に母が亡くなり、私1人では仕事をこなすことが困難になったため廃業し、古い機械は廃棄しました。

町家は本来、商売やものづくりなど、仕事をしやすいようにつくられている建物です。ただ住むだけなら、プライバシーを確保しにくい間取りや、天井の高い大きな土間空間などを不便だと感じることもあると思います。

町家を改修するにあたっては、再び機械を動かしたいという想



昔の姿に戻った建具



トオリニワの様子



ミセノマの様子

いがありました。その思いこそが、町家を残すために改修する原動力になったのだと思います。織屋建の町家で機械を動かす、という本来の姿を取り戻すために、今も試行錯誤しています。

現在は、中古で購入した機械を作業空間に新たに導入し、その調整を行っています。将来的には、町家の中で織機が動いている様子を見学してもらえるような場所にしたいと考えています。

町家をめぐる諸問題

町家は、都心部にあるがゆえに、いつ隣にマンションが建つかわかりません。いくら住民の町家保全の意識が高くても、住環境が悪化すれば住み続けることは困難です。町家を相続したとしても、維持できずに売ってしまえば、その後は町家として残るかどうかはわかりません。住み継ぐ人がいなければ、やはり残らないのです。本気で残そうとするならば、国や行政の施策は不可欠だと思います。

西陣織の環境も決して良いものではありません。若い人たちが育つシステムがなければ残していくのは難しいでしょう。町家の保全は、様々な問題を複合的に含んでいるのだと思います。

- ※1) 織屋建…西陣地域に多く見られる、奥に織機を置くための作業空間を持つ町家。
- ※2) 棟札…建物の新築や修復の際の記録や記念として、棟木・梁など建物内の高い場所に取り付ける札のこと。



作業場の様子



作業場の吹抜け空間



織機を調整する生駒氏

京町家まちづくりファンド



京町家まちづくりファンドは、京都の暮らしの文化、空間の文化、まちづくりの文化を象徴する京町家の再生を支援しています。このファンドは、京町家の保全・再生を推進するための基金として平成17年に設立し、京町家を愛する皆さまのご寄附をいただきながら運営しています。京都の文化である京町家を未来につなぐため、皆さまの温かいご支援をお願いします。

「ご寄附の方法」 一口1,000円から受付しております。

金融機関へのお振込

専用振込用紙をお送りします。

- 三菱東京UFJ銀行 京都支店
- 京都中央信用金庫 本店
- 京都銀行 本店

※専用振込用紙にて、上記金融機関の各本店又は支店からお振込の場合は、振込手数料が不要となります。

クレジットカード決済

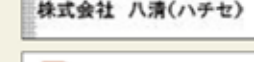
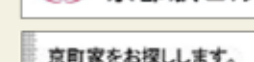
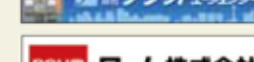
京町家まちづくりファンド専用ホームページからご寄附いただけます。(VISA、MasterCard、JCB)

京町家まちづくりファンド 検索

当センター窓口

現金のみ受付いたします。

私たちは京都のまちづくりを応援しています。



(順不同)

景観・まちづくり大学

景観・まちづくり大学は、京都のまちづくりに関心のある人が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つ…。元気なまちへの一歩、あなたから始めませんか。

京のまちづくり史セミナー

都市史の中でも、特に住民の自立した活動としてのまちづくりの変遷を学ぶ講座です。

平成26年 9月10日(水) オランダに学ぶ近代建築の保存活用

講師：笠原 一人氏 (京都工芸繊維大学大学院助教)

オランダにおける建築の改修や用途の転用事例と、それを支える理念についてお話いただきました。オランダでは1980年代に産業が衰退し、使われなくなった建築が増えたり、キリスト教の教会コミュニティが縮小し、教会堂が放置されるようになりました。これらの建築を保存活用する動きが、近年では活発になっています。教会堂は地域のコミュニティセンターや学生向けワンルームマンションに、ガスタンクはオフィスに、給水塔は住宅(写真)やオフィスなどとして生まれ変わるなど大胆な改修や転用が行われています。こうした保存活用は、国策として建物の転用や改修が進められていて、助成金や利用促進のための支援策が多岐にわたること、都市開発と建築保存を合わせて計画する職能、アーバン・ヘリテージ・コンサルタントの存在などに

より支えられているとのことでした。

オランダの事例から京都が学ぶべき点として、歴史的な建物を凍結的に保存することだけが、都市全体の豊かさには直結するとは限らず、改修活用がまちを豊かにすること、文化的な価値を維持しながら異質なデザインの改修を支える理念や転用方法、改修方法を充実させることなどが挙げられました。



給水塔の外観



給水塔の内部

撮影：笠原一人氏
(一枚ともに)

まちづくり実践塾

まちづくり活動に活用できる情報を提供する講座です。地域まちづくりを行う上で基本となるテーマの講義に加え、実際の活動事例を実践者等にご紹介いただき、現在そして今後のまちづくり活動のあり方について考えます。

平成26年 8月1日(金) 地域が学校をつくり、学校が地域をつくる：学区による学校運営

講師：和崎 光太郎氏 (京都市学校歴史博物館学芸員)

京都の地域単位の特徴の一つである「学区」の成り立ちについて、小学校と地域の関係を軸にお話いただきました。日本初の学区制小学校として、1872年(明治2年)に京都の64学区で開校した番組小学校には、町組*の会所のほかに、徴税、戸籍、消防、警察、府兵駐屯所等、行政機能の要となる機能が集約されていたそうです。また、その運営費は原則(かまど)を持つ家(=すべての戸)が出資し、学校を中心に地域住民による自主運営がなされた点が特徴で、京都市政の基盤となっていたそうです。実際に、現在の修徳学区では初の小学校会社が金融機関と

して小学校の経費を補っていました。

この「番組」はその後「学区」となり現在まで存続していますが、1980年代から本格化した学校統合では、学校は統合されても学区は統合されませんでした。大規模統合から20年が経過しましたが、地域が学校をつくり、その学校が地域をつくったこれまでの関係性の変容は現在でも保たれています。ただし、少子化やマンション建設の増加という現状に対し、京都の地域的な地域運営をどう維持するかは、今後検討が求められる課題のひとつと提起いただきました。

*町組：江戸時代、各地域にあった地域運営組織であり、番組のルーツ。

今後の開催予定(冬季)

京町家再生セミナー

第16回 テーマ 京町家、断熱改修の最新線!
日時 1月21日(水) 18:30~20:30
講師 冨家 裕久氏 (冨家建築設計事務所)

第17回 テーマ 町家の改修資金のあれこれ
日時 2月10日(火) 18:30~20:30
講師 吉田 光一氏
(公社)京都府宅地建物取引業協会、京町家専門相談員

第18回 テーマ 子育て世代と町家の暮らし
日時 3月15日(日) 14:00~16:00
話し手 三原 克敏氏 (町家居住者)
浜谷 富美子氏 (町家居住者)
コーディネーター 朝倉 真一氏 (まちひろば計画工房)

第19回 テーマ 京町家、相続・税金の不安解消!
日時 3月23日(月) 18:30~20:30
講師 辻本 尚子氏 (税理士・不動産鑑定士、(株)みやこ不動産鑑定所代表取締役)

京のまちづくり史セミナー

第9回 テーマ 桂川の渡り方：山陰街道の往来をめぐる村々のせめぎあい
日時 2月14日(土) 10:00~12:00
講師 松中 博氏 (京都市歴史資料館)

第10回 テーマ 先斗町、神楽坂、そして新湯古町：花街の建築と都市空間
日時 3月2日(月) 19:00~21:00
講師 松井 大輔氏 (新潟大学工学部助教)

京町家再生セミナー

京町家の“最初の一歩”としての基本講座です。身近な存在としての京町家の姿を知り、再生の方法などを学びます。

平成26年 9月13日(土) 町家探しの心得イロハ

【会場】京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム
【共催】NPO 法人京町家・風の会
講師：井上 信行氏 (NPO 法人京町家・風の会代表理事、宅地建物取引主任者)



京町家を買う・借りるとき、単なる物件を探すということよりも重要なのは、京都のまちや生活文化をよく知ること。家を選ぶことは「まち」を選ぶことであるという観点から、町家を探す際の心得について3つのテーマのもとお話いただきました。

1つめのテーマ『京都というまちを知る』では、学区による生活環境の違いを考慮し、自分のライフスタイルに合った学区を選ぶことと、門掃きに見られるような京都人独特のライフスタイルを理解することの重要性や、京都の家主さんは、自分の借家の価値を維持しないし高めるために、相手の人となりをはじめとして、町

家の使い方や事業計画などを詳しく知りたいと考える人が多いといったお話がありました。

2つめのテーマ『まちに溶け込む術』では、気さくに自分のことを話すと「溶け込みやすい」人物像と、ご近所に引越しのあいさつをする、神社等への寄附などの慣例には従う、などの「溶け込むための」心得が示されました。

3つめのテーマ『探し方』では、広告の事例を示しながら「古家付き土地」などの表記のある物件には京町家が建っていることがある、といった広告の見方などをご説明いただきました。

平成26年 10月4日(土) 春秋・町家見学会(秋の回)

【会場】旧川崎家住宅紫織庵
長江家住宅袋屋
釜座町町家
【案内人】川崎 榮一郎氏 (当主)
長江 治男氏 (当主)
末川 協氏 (一般社団法人京町家作事組理事)

大規模な商家である旧川崎家住宅紫織庵、長江家住宅袋屋及び、地域が所有され、会合や地蔵盆に使用されてきた釜座町町家(ちょういえ)を見学しました。

旧川崎家住宅紫織庵では町家を維持していくにあたり、しつらえを大正時代の商家の様式に統一しているといったこだわりや、家業の伝統工芸の染色技術を残したいという想いについてお話いただきました。

長江家住宅袋屋では、商家として商売用と生活用の2つの蔵があるといった建物の特徴や、店の空間には大きな明り採りの天窓をとったこと、座敷の床の間に貴重な洋材を使用したことなど、様々な造作の工夫についてお話いただきました。

釜座町町家では、別の町家の解体材や古建具を集めて再利用したこと、座敷の照明は骨董品屋で探したこと、土間たたきは走り庭や店の間やギャラリーで仕上げを変えたことなど、改修の要点についてお話いただきました。

川崎榮一郎氏から町家保存への想いを直にお聞きする中では、町家は「箱」ではなく「しつらえ」が大事であることや、町家は住むためのものだけではなく観光資源として活用することも含め、伝統文化を継承していくことが肝要であるといったお話が印象的でした。



旧川崎家住宅紫織庵



長江家住宅袋屋



釜座町町家

第11回 テーマ 京都小学校校舎の発展過程と学区：昭和戦前のコンクリート校舎
日時 3月14日(土) 14:00~16:00
講師 大場 修氏 (京都府立大学大学院教授)

まちづくり実践塾

第6回 テーマ 寄附を活かした地域まちづくり
日時 2月19日(木) 19:00~21:00
講師 深尾 昌峰氏 (龍谷大学政策学部准教授)

第7回 テーマ 地域と企業のパートナーシップによるまちづくり
日時 3月18日(水) 19:00~21:00
講師 植木 力氏 ((株)カスターネット代表取締役社長、(一社)京都ソーシャルビジネス・ネットワーク代表理事)

【申し込み方法】

①セミナー名 ②開催日
③氏名(ふりがな) ④電話番号
⑤住所(京町家再生セミナー第18回のみ)以上を明記の上、電話・FAX・入力フォームにて「京都いつでもコール」までお申し込みください。
TEL 075-661-3755 FAX 075-661-5855

京都いつでもコール

検索

展示施設

「京のまちかど」案内ボランティアさん紹介

このコーナーでは、京都市景観・まちづくりセンター（以下「まちセン」）1階にある展示施設「京のまちかど」で、展示案内をされているボランティアさんをインタビューにより紹介します。

今回は、ボランティア歴10年、京都百人一首・かるた研究会の代表も務められている河田久章さんです。



Vol.3

河田 久章さん

Q 河田さんの出身はどちらですか？

私はソウル生まれで、戦後に引き揚げ主に東京で育ちました。小さいころから百人一首が好きで、職をリタイア後、念願叶って百人一首が誕生した京都へ引っ越ししてきました。

Q 展示ボランティアを始められたきっかけは？

まちセンとは、以前から関わりがあったのですが、あるとき、職員の方に「ボランティアをやってみませんか？」と声を掛けられたことがきっかけで始めました。私は、京都アスニーでも解説員として、また、百人一首の講座も開いています。百人一首は、主に平安時代の京都が中心で、百人一首をやるからには、「京都のことを知らなければならぬ」という思いから、平安時代のことは京都アスニーで、そして京都の歴史全般のことはまちセンで学ぶためボランティアをしています。

Q 百人一首の活動について教えてください

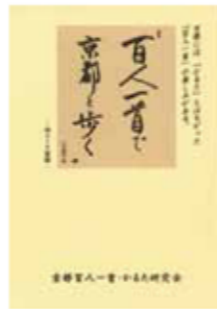
京都百人一首・かるた研究会では、百人一首のゆかりの地を巡る「百人一首で京都を歩く」というツアーなどを通して、百人一首の歴史や魅力を伝える活動をしています。ツアーを始めて、これまでに46のコースを完成させました。

Q 京都のどんなところに魅力を感じますか？

京都は、百人一首に関係する場所や歌人ゆかりの地が数多くあります。いろいろな楽しみ方ができ、また、大学や博物館に行けば史料が数多く公開されており調べられることもできる、「全てがいい」まちです。

Q 河田さんが得意な時代は？

やはり平安時代ですね。京都に都ができて1200年。このうち一番長い400年のことを知らなければ京都のことはわかりません。お越しいただいた方には、百人一首の話も交え、詳しくご説明します。



Q 「京のまちかど」には、どんな楽しみ方がありますか？

修学旅行生が見学に来たときに話しているのは、京都タワーに登って見て、その後、京のまちかどで京都市の航空写真を見てほしいということです。これで、ものすごく京都のことがわかるので、ぜひ、修学旅行のコースにしてほしいですね。

私と京都

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター理事
京都造形芸術大学学長

尾池 和夫



「百万遍交差点の50年」

最近、読売新聞社の記者が、京都の百万遍という地名について取材に来た。それをきっかけにさまざまなことを思い出しながら、長時間にわたって詳しく話した。記者にはあまり興味のない話だったとみえて、完成記事は、大きな紙面にもかかわらず、わたしの百万遍交差点の話は登場しなかった。

記者が取り上げたのは、7日間に100万回念仏を唱えるには、1回の念仏を約0.6秒で唱えることが必要だというわたしのコメントだけだった。百万遍交差点の北東側にある寺が百万遍知恩寺である。元弘元年(1331年)の疫病で、知恩寺の八世善阿闍梨上人が百万遍念仏を唱えたところ疫病が収まったので、後醍醐天皇が百万遍という号を賜ったということについてのコメントである。北東側には郵便局があって、なけなしの貯金を引き出しに行った。

交差点南東側に、京都大学のキャンパスがある。東大路の電線が地中に埋設してあるので、南を見ると美しい。南東角から南へ、立て看板を設置する学生たちに重要な「石垣」がある。2006年、石垣の一部を撤去する計画に反対する人たちが「石垣カフェ」を設置し

たが、わたしは、これは石垣ではなく「石崖」だと書いた。そこは尾張藩京都下屋敷があった場所で、花折断層の上下ずれで隆起した東山から、浸食された土砂が流れてきて北白川扇状地を形成している土地で西へ低くなっており、平坦にするため西側が崖になっている。だから石垣ではなく石崖であり、活断層地形を学ぶ重要な崖なのである。

交差点の南西側には美味しい「ときわ木」と「黄檗」を売る「かぎや政秋」があり、「吉田泉殿之跡」の碑がある。昔、西園寺公経が別荘を建てた。京都大学の研究所の人たちが集う施設ができたとき、それを「京都大学吉田泉殿」という名にするよう提案した。

北西の角には古い食堂があって、その食堂の箸袋には、つい最近閉店するまで、百万遍電停前と印刷してあった。1978年に市電は廃止されたのだから、よほどたくさん箸袋を印刷してあったのだろう。その西に京都帝国大学の創設にあたった西園寺公望の屋敷があった。それが今の京都大学の清風荘である。

百万遍交差点の周りを今でも歩くが、その周辺をわたしが歩き始めてから、はや半世紀が過ぎた。

まちセンからのお知らせ

京都市景観・まちづくりセンターには、景観・まちづくり活動の拠点として、気軽に打合せができる「交流サロン」や、プロジェクターや音響設備を備えた会議スペース「ワークショップルーム」、印刷機や紙折り機を備えた作業スペース「まちづくり工房」を設置しています。

「交流サロン」は自由にご利用いただけるほか、「ワークショップルーム」と「まちづくり工房」は、一度、センターへ団体登録を行っていただければ、何度でもご利用いただくことができます。

※団体登録は、ホームページから行うことができます。



交流サロン ワorkshopルーム まちづくり工房

図書スタッフのおススメ本 vol.3

「京の宝づくし縁起物」

十二支、達磨、招き猫など、日ごろ親しんでいるものの詳しいことは今ひとつよく知らない縁起物を、写真付きで解説しています。

年の初め、節目、くらしなどにちなんだ縁起物がふんだんにあることがわかります。第五章の「京都の町家は縁起物屋敷?」では、町家の外観をよく見ると見つかる縁起物などが紹介されていて、まち歩きも楽しくなりそうな内容です。



ホームページから
図書を検索できます。

ひと・まち交流館 図書コーナー

検索

スタッフのつぶやき

男の子っぽいグッズに普段から目がなく、一度は乗ってみたかったロードバイクを京都への引っ越しを機に購入。運動音痴の私でも颯爽と走れるのでおすすめなのですが、思いがけないメリットは、色々な人との会話のきっかけになること。関西だからか、「かっこいいねー」から始まり、自転車好きの人からは武勇伝が聞け、自転車屋さんは初心者の方に懇切丁寧にイロハを教えてくださいました。また京都近郊には、京都八幡木津自転車道など名所につながるルー



トが身近に充実しており、おいしい空気を求めてちょっと走るだけで小旅行気分も味わえ、人や風景との出会いが自転車のおかげでできました。唯一の難点は、これに乗っていると実際に反して体力があるように見えてしまうこと。というわけで、今まで以上に自転車を楽しむためにも、そろそろ人並みに身体を鍛えなければ…と思っている今日この頃です。

スタッフ AM